

「秋の北極圏旅行記 (11)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



海外旅行というと、有名な建物や旧跡を巡るのが普通ですが、私はこういう何でもない風景が好きです。



秋の線路です。このインランズバーナン (内陸鉄道) には、夏には何度も乗車しましたが、9月には定期列車は運行されていません。



踏切を渡った道にも、心ひかれました。こういう自然の中に人の営みのある風景が好きなのです。



(画 ; C.Tanaka)

ヨックモックにも駅はあります。しかし、街のはずれにあって「駅こっち」といった標識も一切ありません。夏には、登山客で賑わう駅です。駅舎は個人所有で、現在内部は公開されていません。



列車はめったに来ませんが、信号は点灯していました。2月の「ヨックモック・マーケット」というお祭りの時は、臨時列車も停車します。



ヨックモックには「アイテ」という博物館があります。古くから住んでいる「サーメ」の人々の歴史・民族・生活を展示しています。以前は 40 クローネで入

れたのですが、3倍の120 クローネ（約1800 円）になっていました。今回は売店だけの利用にしました。



ヨックモックからポルユスに戻る途中の標識です。この「サレク国立公園」「キビックヨック」は、スカンジナビア山脈の麓にあって、まだ行ったことがないので、今回は行きたかったのですが、ちょっと遠い！



バス停がかわいいです。中には木製のベンチがありますが、バス停泊は凍死の恐れがあり、無理ですね。



「バスがあなたに気づくように回してね」と書いて

あります。回すといいのですね〜。



ポルユスには古い家屋がたくさんあります。どの家も保存が良く、自然に調和していて美しいです。いつも中を見たいと思うのですが、今回も見逃しました！



翌日は、イエリバーレ駅から列車で一日旅行に行きました。途中「ドゥンドレット」という観光地に寄りました。



1995 年に友人と初めて北極圏を訪れた時に、泊ったところでした。ちょっとなつかしくて寄ってみたのです。写真は 2000 年 12 月に撮影したものです。